

日比谷公園 大噴水・小音楽堂周辺の再整備について

令和 6 年 7 月に完了した「第二花壇」の再整備に続き、「バリアフリー日比谷公園プロジェクト」に基づき、今年度から「大噴水・小音楽堂周辺」の再整備工事に着手します。

大噴水は現在の形状を継承し、再整備します。小音楽堂はステージや観覧席の高さを下げて段差や柵をなくし、噴水広場と一体的な広場として再整備します。

今回のオープンハウスでは、大噴水周辺の再整備に関する内容をお示しします。

小音楽堂周辺の再整備については、別途、オープンハウスを開催しお示しします。

大噴水周辺の再整備

歴史

- ・日比谷公園の大噴水は、開園時に運動場として整備された場所を 1961 年（昭和 36 年）に第二花壇とともに再整備したものです。整備以降、日比谷公園の象徴的な風景として長きにわたって多くの都民に親しまれてきました。

当初

- ・整備当初から水辺に寄り添って人々が憩う風景が確認できます。
- ・30m の円形水盤、3 段噴水は、日比谷公園の顔として、象徴的な景観を創出してきました。



1964 年当時の大噴水

現況

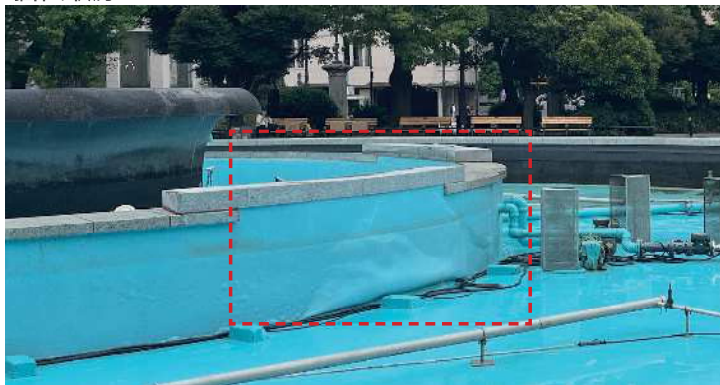
- ・整備当初の大噴水のスケールや形状が継承され、水辺に寄り添って休憩する人々、噴水広場外周のベンチに座って大噴水を眺める人など、多くの来園者が憩い日比谷公園の顔として親しまれています。
- ・一方で設備の老朽化等により、噴水の演出は整備当初より縮小したものとなっています。



現在の大噴水

現状の課題

躯体の状況



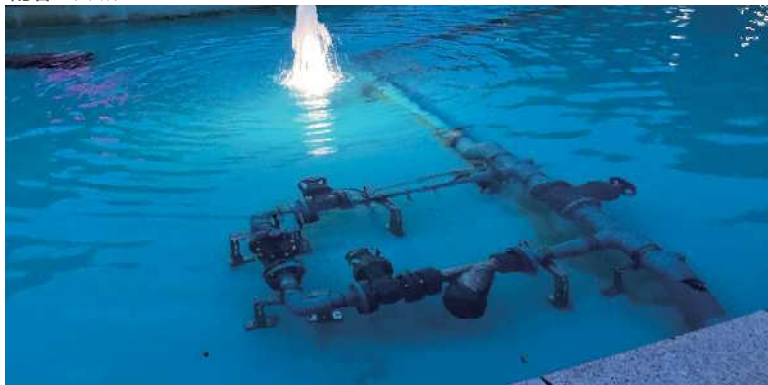
コンクリート躯体の劣化が激しく、防水塗装にも影響がでています。

噴水の縁



噴水の縁幅が狭い上に、噴水側に傾斜しているため、快適に腰を掛けにくい状況です。

配管・ノズル



配管やノズルが水中でむき出しになっており、美しさや風格に欠けています。

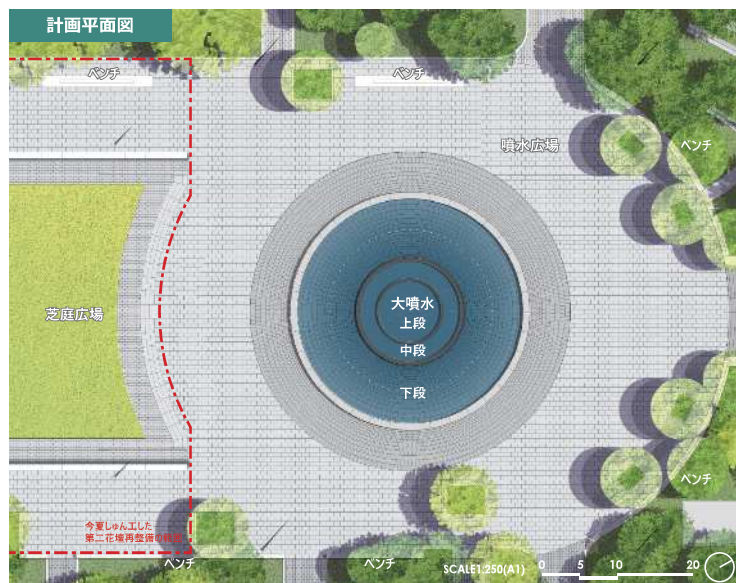
大噴水周辺の舗装



大噴水周りの舗装に排水のための段差があり、バリアフリーの対応が十分でない状況です。

再整備の方針

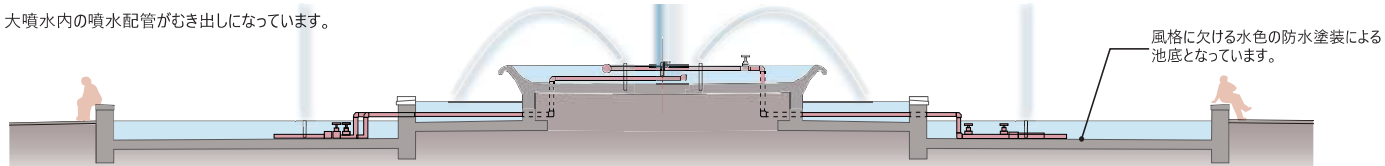
- ・老朽化した大噴水は、長きにわたり都民に親しまれてきた現在の形状とそこから生まれる良好な風情を継承しつつ、再整備します。
- ・整備当初の円形形状や大噴水のスケール、3段構成の形状、日比谷公会堂から小音楽堂に至るビスタ軸線上の位置等を継承します。
- ・人々が水辺に寄り添ってたずむ風景や噴水広場外周で大噴水を眺めながらくつろぐ風景等が特徴となっており、これら風景を継承するため、第二花壇の再整備空間と連続性を持たせた噴水広場舗装等の整備や大噴水の更新などにより、風格があり、より快適に過ごせる空間として整備します。



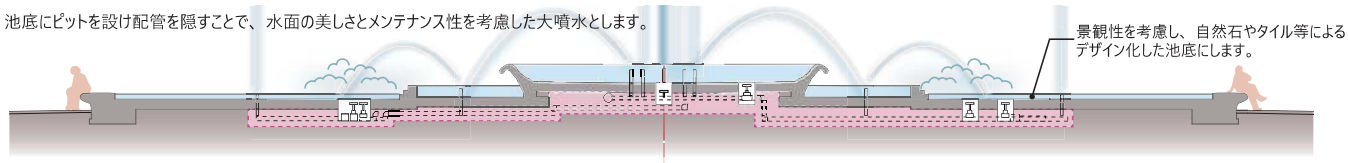
現在の形状を継承した大噴水を再整備

- ・老朽化した大噴水の更新にあわせ、むき出しになっている配管やノズルを池底のピット内に隠すとともに、池底の仕上げを風格のある素材・デザインとします。

現況 大噴水内の噴水配管がむき出しになっています。



計画 池底にピットを設け配管を隠すことで、水面の美しさとメンテナンス性を考慮した大噴水とします。

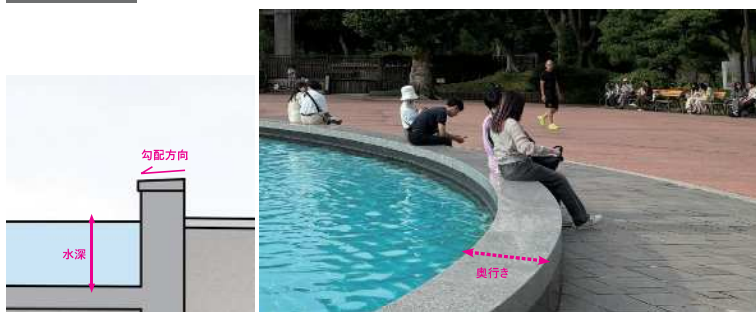


大噴水空間の魅力向上

- ・大噴水周りと噴水広場を、より風格と快適性を高めた魅力ある空間とします。

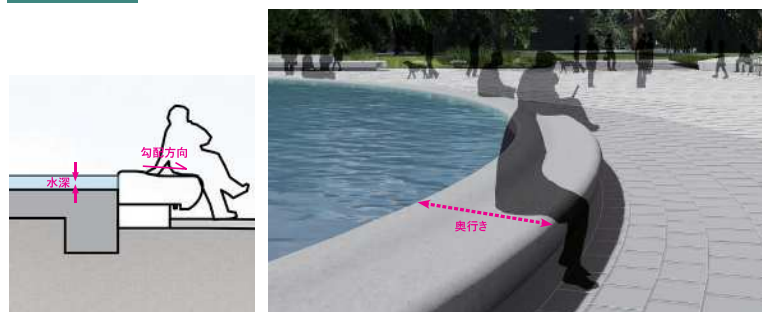
大噴水下段池の縁・噴水広場の舗装

現況



- ・大噴水下段池の縁は、狭く座りにくい縁石形状となっています。
- ・噴水広場の舗装が、周辺舗装と一体的でなく風格と魅力に乏しい空間となっています。

計画



- ・重厚感のある縁石によって大噴水の象徴性を高めます。
- ・縁石の奥行きを広げ、ゆったりとした形状で多様な過ごし方に対応できるとともに、形状等の工夫により座り心地の向上と噴水池への人・物の落下を防ぎます。
- ・下段池の水面を高くしつつ水深を浅くすることにより、親水性と安全性を高めます。
- ・噴水広場の舗装を第二花壇の再整備の舗装と一体性を持たせ風格ある舗装とします。

段差の解消

- ・段差を解消し、噴水広場における安全快適な移動と多目的な利用が可能となる空間とします。

現況



大噴水周りの舗装に排水のための段差があり、バリアフリーの対応が十分でない状況です。

計画



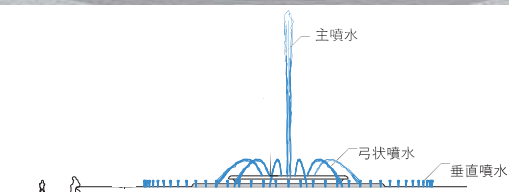
大噴水周りと噴水広場の段差を解消し、フラットで一体的な舗装にします。

噴水演出

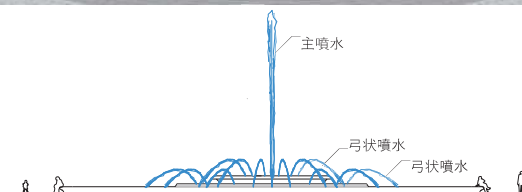
- ・現状の構成を活かしながら、多彩な演出が可能となるようノズル、照明を追加します。

垂直噴水や弓状噴水、ミストの追加により、3段階構成と噴水池のスケールにふさわしいより充実した風格ある魅力的な水景演出を図ります。シーンにあわせた水の動きと連動した光の演出を図り、目比谷らしい落ち着きのある照明とします。

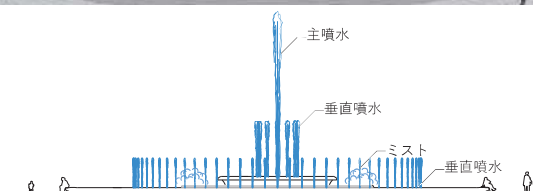
演出例 1：現況の演出を再現



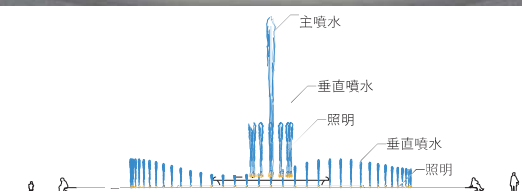
演出例 2：3段階構成を強調する弓状噴水



演出例 3：円形を強調する垂直噴水



演出例：夜間のカラー照明



日比谷公園 大噴水・小音楽堂周辺の再整備について

令和6年9月にリニューアルオープンした「芝庭広場」の整備に続いて、「バリアフリー日比谷公園プロジェクト」に基づき、今年度から「大噴水・小音楽堂周辺」の再整備工事に着手しています。

大噴水は現在の形状を継承し、再整備します。小音楽堂はステージや観覧席の高さを下げて段差や柵をなくし、噴水広場と一体的な広場として再整備します。

令和6年8月に行った大噴水周辺の再生整備に関する内容のオープンハウスに続き、今回のオープンハウスでは、小音楽堂周辺の再生整備に関する内容をお示します。

小音楽堂周辺の再整備

歴史

日比谷公園の小音楽堂は、開園間もない1905(明治38)年に完成し、その後震災による倒壊や、老朽化等により2回建て替えを行っています。

現在の小音楽堂は、1983(昭和58)年に整備し、築40年以上が経ち、老朽化が進んでいます。

初代の整備以降、小音楽堂は洋楽コンサートなどの場として多くの都民に親しまれてきました。

- ・初代の小音楽堂の建設当時は、広場と音楽堂の空間は完全に分離されており、ステージ周囲の全方位に観客席があり、周囲も柵で囲まれていました。
- ・2代目の小音楽堂は、南北両サイドに観客席があり、周囲に柵はありませんでした。その後、周辺の整備により、南側観客席はなくなりました。
- ・3代目の小音楽堂は、北側のみに観客席があり、周囲は柵で囲われています。周辺樹木も育ち、緑に囲まれた小音楽堂となりました。

このように時代の変遷を通して、小音楽堂の姿も変わり、利用にあわせて新たな魅力を生み出してきました。

初代（1905年～1923年）



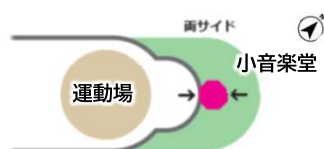
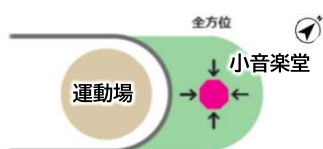
震災前小音楽堂 明治38年完成*

2代目（1928年～1983年）



小音楽堂

3代目（1983年～現在）



※ 矢印「←」は、観客席から小音楽堂を見る方向を示します。

現状の課題

閉鎖的な空間



- ・噴水広場から段差と柵により空間が分断され、閉鎖的な空間となっています。
- ・バリアフリーの入口も限定的で幅員が狭くなっています。

手狭なステージ



- ・オーケストラ等を演奏するには手狭な状況です。
- ・屋根が小さく、雨天時の吹込みも多い状況です。
- ・段差も大きくスロープもなく、バリアフリーではありません。

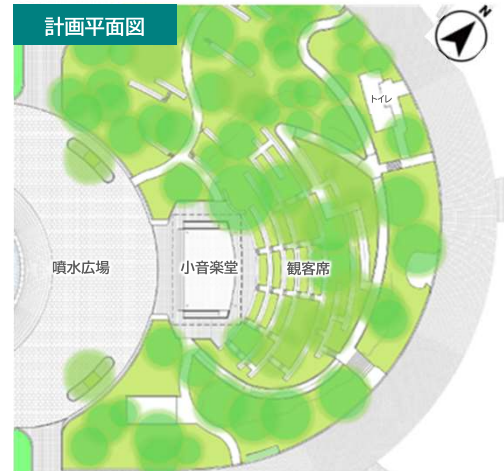
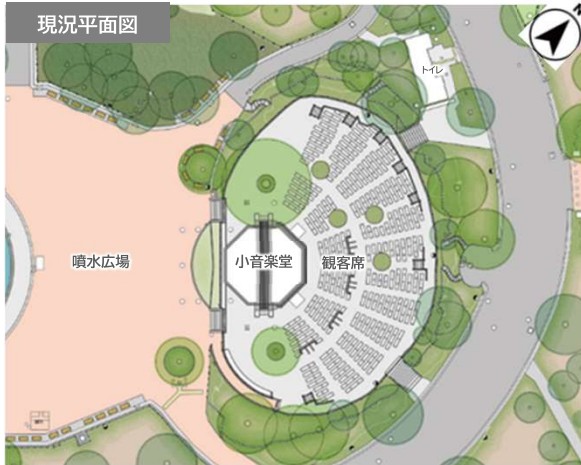
脆弱な設備やバックヤード



- ・音響や電源等の設備が限定的で、演奏可能な演出に制限があります。
- ・照明が不十分で、利用に制約が生じています。
- ・資機材の搬出入動線がなく、収納スペースが不足しているほか、控室がないなど、使い勝手がよくありません。

再整備の方針

- 緑豊かなランドスケープと一体的な小音楽堂として再整備します。
 - ・既存樹を保全し、森の中の囲まれ感を創出します。
 - ・既存の地形を活かした多様な居場所をつくりだします。
- 小音楽堂の魅力を高めます。
 - ・音楽等の発信拠点としての価値を向上させます。
 - ・緑と調和したビスタ軸の受けとします。
- 多様な利用やあらゆる人がアクセスできる小音楽堂として再整備します。
 - ・噴水広場との一体的な利用を可能とします。
 - ・アクセス性や機能性を向上させます。
- 平常時は、観客席等を一般に開放し、快適に利用できる場となるよう再整備します。
 - ・緑の中でゆっくりくつろげる開放的な空間とします。



現在の地形を活かした小音楽堂の再整備

- ・小音楽堂を噴水広場側に再配置し、噴水広場と一体となる空間とするとともに、観客席側の空間を広げます。
- ・観客席は現在の地形や既存樹木も活かしながら、思い思いの形で過ごせる空間にするともに、よりステージが見やすい空間としていきます。



小音楽堂空間の魅力向上

○ 開放的な空間

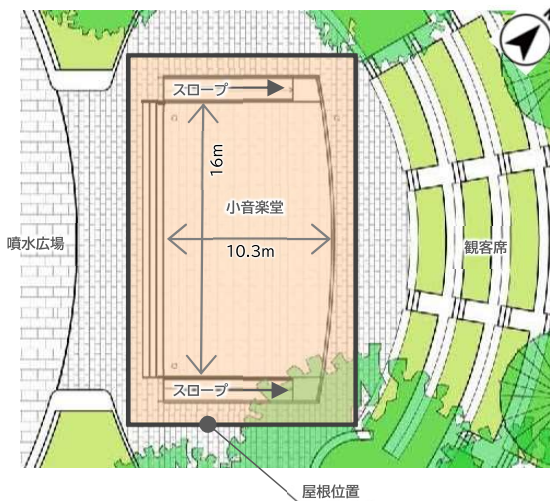
- ・コンサート等の利用時以外でも休憩等できる場所として、日常利用ができる開放的な空間
- ・噴水広場側からの段差を解消し、噴水広場と一体的な利用が可能
- ・外周石積みの段差を解消し、周囲のS字園路からも入りやすい空間



噴水広場側から見た小音楽堂イメージ図

○ ステージ機能の強化

- ・コンサート等において、より利用しやすいようステージ面積を拡大
- ・2方向(噴水広場側・観客席側)どちら向きでも利用できるステージ
- ・ステージをカバーする屋根で雨の吹込みを減少



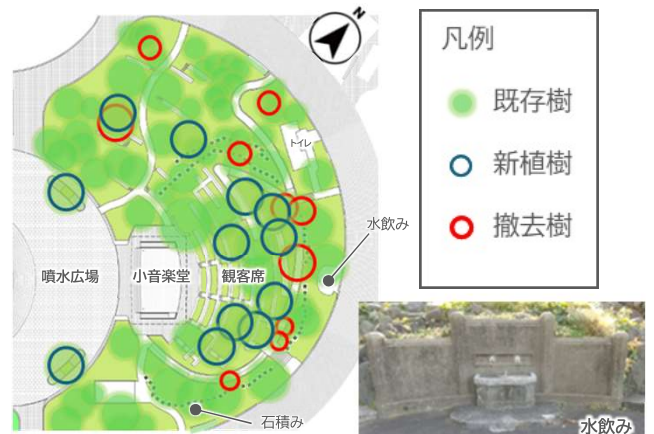
○ バリアフリーの推進

- ・小音楽堂周辺の細園路をバリアフリー化
- ・客席スペースにおける車椅子席を拡充
- ・ステージへのスロープを設置



○ 緑の中の小音楽堂

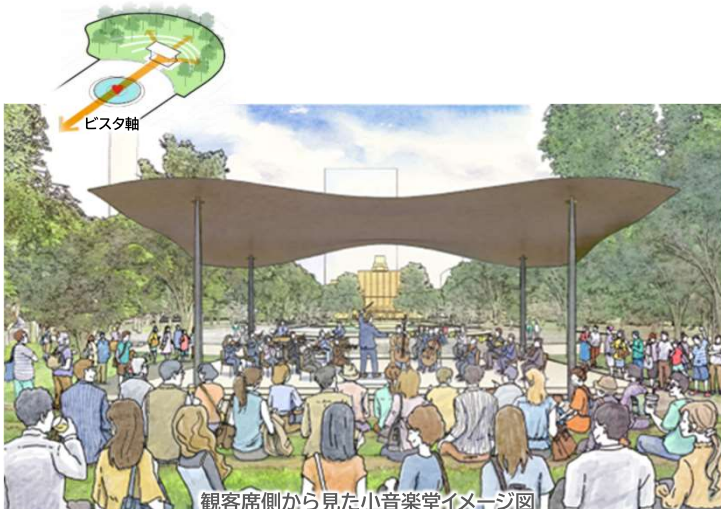
- ・既存樹木の保全(侵略的外来種※は撤去)
- ・緑の充実を図るため、新たに植栽を追加
- ・外周部の石積みは、既存樹木への影響等に考慮し、覆土して残す
- ・北側の水飲みは、現状のまま保存



※もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを外来種といい、外来種の中でも、その地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性をおびやかすおそれのあるものを、「侵略的外来種」といいます。今回のエリアではトウネズミモチとニセアカシアが、侵略的外来種に該当しており、今回の再整備に合わせて撤去することとしています。

○ 周辺と調和した開放的な小音楽堂

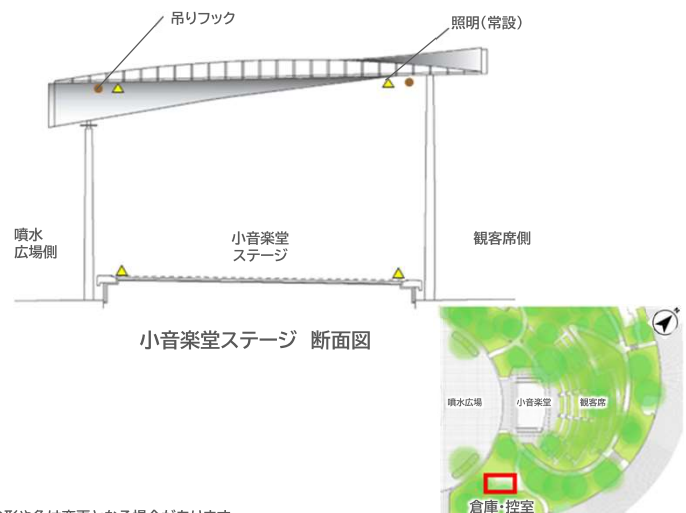
- ・周辺の緑と調和し、緑地と一体的にビスタ軸の受けとなる開放的な建築
- ・視線の遮りを最小限として、広がりのある屋根形状



観客席側から見た小音楽堂イメージ図

○ 設備、倉庫、控室の充実

- ・多様な演目が開催でき、演者側が利用しやすいように、音響や照明等の一定の設備に加え倉庫や控室を整備
- ・多様な利用を考慮した照明の設置



※平面図やイメージ図は、参考的に表現したものです。実際の形や色は変更となる場合があります。